

I：はじめに

(1) 本書の目的および概要について

① 目的

県内有数の複合型文化施設である「三重県総合文化センター」(三重県津市)では、毎日あらゆるジャンル、多数の催事が実施されている。地震や津波などの災害発生時、指定管理者としてセンターの管理、運営を担っている(公財)三重県文化振興事業団は、施設利用者の安全を最優先として、その対応を可能な限り適格かつ円滑に遂行することが求められる。また、将来近海を震源地として発生が予想されている「南海トラフ地震」をはじめとする大規模災害発生時には、センターを避難所として活用する可能性(所在自治体である津市の指定を受けている)があることから、避難者の受け入れやその後の避難生活時における諸対応についても、一定の基準を有しておく必要があると考えられる。

東日本大震災では、避難所の運営等、災害現場での意思決定に女性の参画が非常に少なく、男女のニーズの違いを踏まえた対策が不十分であったことが指摘されている。そのような中、男女共同参画の視点から、被災者支援、応急対策、復旧・復興、予防等の各段階での対策・対応が求められている。

そこで、当事業団で運営されている三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」では、先の大震災の経験を踏まえ、「防災・復興における男女共同参画」について重点テーマとして数年に渡り、取組を行っている。

それらを踏まえ、本書では発生する災害の規模や時期など様々な想定の下、災害発生時に当事業団の職員が最低限採らなければならない対応や各施設の避難所活用方法等を、「男女共同参画視点でのモデル」として予め作成・共有することで非常時に備えるとともに、他地域の公共施設等においても参考となるよう「男女共同参画センター調査研究」として発表することとした。

② 概要

本書では、複合文化施設「三重県総合文化センター」の施設概要紹介、災害発災前(平常時)から災害発生後(初動～避難所開設まで)を想定した、施設職員の対応および施設の避難所活用のモデルを提示する。

ただし、「災害発生時の職員対応モデル」は地震発生を想定したものとし、その規模や発生時期、職員の経験値に関わらず最少人数の勤務体制でも取組を進めることができるよう、最低限必要な対応項目を想定している。火災の単独発生時や大規模地震に伴う津波などの災害発生時にもこの対応モデルを基に現場の状況に応じて対応を進められるよう随時内容のチェックおよび改訂を行いながら、現場で活用できるよう各部署に配備する。

また、「施設避難所活用モデル」については、貸館状態に関わらずセンター全体を避難所として使用できる想定で作成。施設の特徴を活かしながら、災害時の男女それぞれの立場による困難等が起らないよう、プライバシーの保護や安全確保にできるだけ配慮した「男女共同参画の視点での施設活用方法」を提示する。また、乳幼児連れ、高齢者などの多様性にも配慮し、提示モデルを「センターとしての理想的な避難所の姿」と捉え、現場ではそのモデルに近づけることを一定の基準として職員が

状況に応じて対応できるようになることを目指すものとする。作成にあたり、平成25年度に「フレンテみえ」主催で実施した地域リーダー養成講座「“そうぶん”が避難所に！？～今すぐ考えておきたい災害対策～」の中で得られた県民（参加者）の声や多くの関連資料の内容を反映し、「男女共同参画の視点での防災・災害対策」を基とした“多様なニーズに対応できる公共施設等の非常時の在り方”の一案を提案するものである。

なお、本書は「フレンテみえ」の調査研究として、男女共同参画の視点に基づいた諸対応に必要な心構えや備えなどについても項目として触れるとともに、男女共同参画視点での防災講座の事例紹介として平成25年度地域リーダー養成講座の報告や、本書作成の参考とするため訪問しお話を伺った「東日本大震災被災公共施設の視察報告および提案（内部用報告文書）」についても資料として掲載することとする。

③ 防災および災害対策における男女共同参画センターの役割について

地域の防災力の向上や災害からの力強い復興のためには、生活者の多様な視点を反映させた防災対策や、男女共同参画の視点を採り入れた防災・復興の体制づくりが以前から求められている。しかし、東日本大震災においても、政策・方針決定過程への女性の参画が十分でなかったために現場に女性のニーズが反映されなかった事例や、「男性は仕事、女性は家庭」などの「固定的性別役割分担意識」がより強調され困難を強いられた事例が数多く報告された。これらの課題には、平常時から男性も女性も暮らしやすい社会、つまり、「男女共同参画のまちづくり」を進めておくことが不可欠であり、また最も効果的であると考えられている。

このことから、「フレンテみえ」をはじめとする男女共同参画センターは、その役割として、平常時から「固定的性別役割分担意識」の解消に向けた啓発や相談事業、防災・減災における男女共同参画の必要性理解や男女が自立して自分らしく生きていくための事業など、地域の男女共同参画推進のための様々な活動を展開していくことが重要である。また、災害・復興時においても、あらゆる立場の方たちのニーズを把握しそれに対応するため、相談事業や男女共同参画の視点に立った情報発信などを重要な役割として、そのための機能の向上を図っていくことが必要だと考えられる。

なお、国、三重県では男女共同参画センターが取り組むべき指針として以下の通りまとめており、「フレンテみえ」もこの方針に基づいた役割を担う。

国の指針

【男女共同参画の視点からの防災・復興の取組指針】

男女共同参画センターは、平常時から行っている相談事業、情報提供事業、広報・啓発事業等に加え、地方公共団体の関係機関や地域の人材・団体との連携等を通じて、男女共同参画の視点からの情報提供や相談対応、男女共同参画に関する課題に取り組む

（発行：平成25年5月 内閣府男女共同参画局）

三重県の指針

【三重県新地震・津波対策行動計画（中間案）】

災害時に、三重県男女共同参画センターが、専門的知見を生かして相談事業や情報提供事業を行えるよう、あらかじめその果たすべき役割を明確にしておくとともに、平時から相談員の資質向上に努めるなどして機能の充実を図る

（発行：平成25年3月 三重県）

(2) 「三重県総合文化センター」について

① 施設概要 [参考: <http://www3.center-mie.or.jp/center/center/01.html>]

「三重県総合文化センター」は、三重県民の文化芸術活動および生涯学習活動ならびに男女共同参画の促進に寄与するため、津市に設置された複合型文化施設。平成6年開館。平成26年で設立20周年を迎える。

センターは、三重県文化会館、三重県生涯学習センター、三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」、および三重県立図書館によって構成されている。センターの施設管理および貸館業務、文化会館、生涯学習センター、男女共同参画センター「フレンテみえ」の三施設の事業運営は、平成16年度より「指定管理者制度」に基づく公募により、公益財団法人三重県文化振興事業団が管理運営を行っている（平成26年3月末現在3期目、平成27年度末まで）。

敷地内には、大・中・小・多目的の4つのホールを中心に、会議室、研修室、セミナー室などの会議室系、ギャラリーなど展示系、リハーサル室、フィットネスルーム、生活工房、和室などワーク系の各貸館対応施設（計26施設）が中央にある二つの広場（貸館対応可）を囲む3棟の建屋内（茶室のみ別棟）に配置されている。

三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」は、三重県の男女共同参画社会を推進する拠点施設として、「情報発信」「研修学習」「相談」「調査研究」「参画交流」の5本柱で事業を展開している。（平成13年「三重県男女共同参画推進条例」の施行を機に「三重県女性センター」から改称）

【三重県総合文化センター】施設概要

- 敷地面積 約6.2ha
- 延床面積 46,305m²
(文化会館棟 29,415m²、生涯学習棟 11,763m²、男女共同参画棟 5,127m²)
- 設計監理 (株)A & T 建築研究所・三重県総務部管財営繕課
- 施工業者 建築/大成、清水 他 J V
電気設備/トーエネック、三重電業 他
機械設備/三建、朝日 他
舞台機構/カヤバ、三菱重工 他
舞台照明/東芝ライテック
舞台音響/松下電器産業
- 電気機能 電気方式/交流3相3線式 受電電圧/70,000ボルト
標準周波数/60ヘルツ 受電方式/2回線受電
契約最大電力/2,100kw 非常用自家発電設備/あり
- ガス機能 契約相手/東邦ガス ガス方式/都市ガス
最大使用量/374 m³/h
- 水道機能 契約相手/津市水道局 水道方式/上水道のみ
貯水槽(飲料用)/146 m³

皆さまへ〔報告書の概要〕

② 貸館施設一覧 [参考: <http://www3.center-mie.or.jp/center/annai/01.html>]

(広さ・床面積はおよその数値。収容人数は設置席数によるもので、避難所活用時の数値とは異なる)

棟		施設名	収容人数／広さ・床面積	主な使用目的	レイアウトなど
文化会館棟	1	大ホール	1903 席	コンサート・講演会など	シューボックス型
	2	中ホール	968 席	演劇・コンサートなど	シェル型
	3	小ホール	最大 322 席	演劇・コンサートなど	可動&階段イス
	4	レセプションルーム	100 名／227 m ²	パーティ・シンポジウムなど	スクール形式
	5	第1ギャラリー	650 m ²	美術・工芸展示など	フローリング
	6	第2ギャラリー	450 m ²	美術・工芸展示など	フローリング
	7	第1リハーサル室	205 m ²	コンサート・ライブなど	フローリング
	8	第2リハーサル室	148 m ²	コンサート・ダンスなど	リノリウム
	9	大会議室	70 名／160 m ²	講演会・会議など	スクール形式
	10	中会議室	50 名／94 m ²	会議・試験会場など	スクール形式
	11	小会議室	30 名／54 m ²	会議・ミーティングなど	口の字型
生涯学習棟	12	大研修室	156 名／232 m ²	講演会・会議など	スクール形式
	13	中研修室	84 名／157 m ²	会議・試験会場など	スクール形式
	14	4階小研修室	42 名／80 m ²	研修・サークル活動など	スクール形式
	15	2階小研修室	42 名／80 m ²	研修・サークル活動など	スクール形式
	16	視聴覚室	143 名／160 m ²	講演会・映画上映など	階段形式
男女共同参画(フレンテ)棟	17	多目的ホール	最大 425 席	講演会・シンポジウムなど	可動&階段イス
	18	セミナー室 A	100 名／184 m ²	講演会・会議など	スクール形式
	19	セミナー室 B	50 名／85 m ²	研修・サークル活動など	スクール形式
	20	セミナー室 C	100 名／195 m ²	講演会・会議など	スクール形式
	21	特別会議室	30 名／76 m ²	会議・ミーティングなど	楕円卓
	22	セッションルーム	6 名／18.2 m ²	会議・ミーティングなど	長机ほか
	23	フィットネスルーム	102 m ²	ダンス・ヨガ・空手など	フローリング
	24	生活工房	60 人／197 m ²	料理・被服教室など	キッチンあり
	25	和室	8 畳+6 畳+3 畳(前室)	茶道・華道・着付など	給湯設備あり
	26	茶室	6 畳+4.5 畳+立札席 30 m ²	茶道・華道・会合など	専用トイレあり
広場	27	祝祭広場	3087 m ² (貸館部分 400 m ²)	フリーマーケットなど	自動車乗入可
	28	知識の広場	1100 m ²	フリーマーケットなど	自動車乗入不可

※その他、男女共同参画棟には「フレンテみえ」登録団体向けの貸出施設(サークル室・チャットルーム・リサーチ室)あり

○シャワー設備のある施設 …大・中・小ホール楽屋、フィットネスルーム

○給湯設備(室)のある施設 …大・中・小・多目的ホール楽屋、レセプションルーム、生活工房、和室
および文化会館棟2階・生涯学習棟2～4階・フレンテ棟1～3階の各階

③ 施設図など



センター全体（奥が大ホール）



メインエントランス



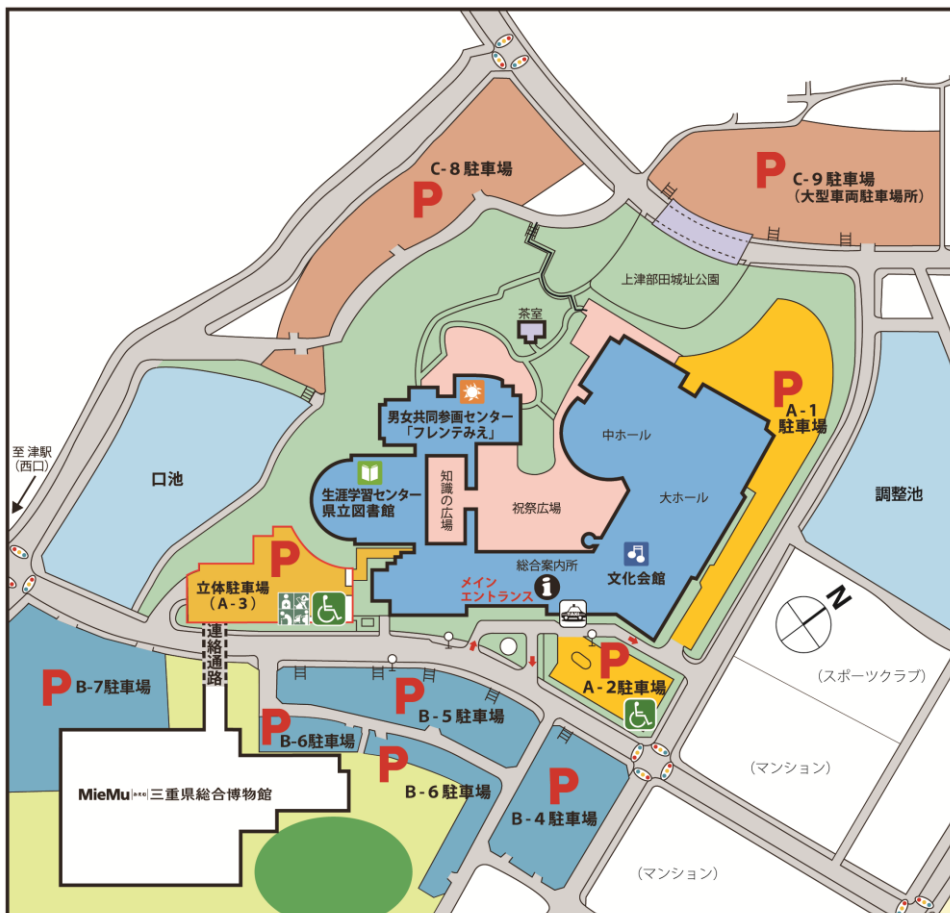
祝祭広場（奥が中ホール）



知識の広場（奥がフレンテみえ）



生涯学習センター



三重県総合文化センター フロアガイド

三重県総合文化センターは、文化会館・生涯学習センター・男女共同参画センター「フレんてみえ」・三重県立図書館・放送大学三重学習センターから構成される複合文化施設です。



(3) (公財) 三重県文化振興事業団 防災・災害対策プロジェクトについて

① プロジェクトの目的

災害の規模や時期等、様々な状況において事業団職員としての確な対応が求められる中、全職員が防災・災害対策への意識を高め、より実態に即したモデル提案ができるよう、事業団内でプロジェクトチームを結成して、本書作成を進めた。

プロジェクトには、総務部・文化会館・生涯学習センター・施設利用サービスセンター・男女共同参画センターの全部門から職員が参加し、本書の検討、作成に取り組んだ。

② プロジェクトの経過、活動記録

実施時期	内容
2013/8/10～9/7	地域リーダー養成講座 「そうぶんが避難所に！？ ～いますぐ考えておきたい災害対策～」 参加 講座参加者とともに、避難所運営体験、男女共同参画視点の学習、“そうぶん”(三重県総合文化センター)が避難所になった場合の活用モデルを作成
2013/10/2	第1回プロジェクト会議実施 ・取組趣旨、作成モデルイメージの共有、スケジュール確認 ・プロジェクト内視察チームメンバー決定
2013/10/10	第2回プロジェクト会議実施 ・職員対応モデル(発災直後の確認事項チェックシート)の検討 ・視察先でのヒアリング内容検討 ・各部門での職員対応モデル検討(10/10～11/28)
2013/11/12 ～11/14	東日本大震災被災地域公共施設への視察 ①「日立シビックセンター」 運営:(公財)日立市科学文化情報財団 ②「いわき芸術文化交流館アリオス」 運営:いわき市 ③「仙台市泉文化創造センター イズミティ21」 運営:(公財)仙台市市民文化事業団 ④仙台市男女共同参画推進センター「エル・ソーラ仙台」 運営:(公財)せんだい男女共同参画財団 ⑤「仙台市シルバーセンター」 運営:(公財)仙台市健康福祉事業団
2013/11/29	第3回プロジェクト会議実施 ・視察報告 ・上記を踏まえた職員対応モデル及び避難所活用モデル案の検討
2013/12/18	第4回プロジェクト会議実施 ・職員対応モデル及び避難所活用モデル案の検討 ・防災訓練の流れ確認
2013/12/28 ～2014/1/26	監修者によりモデル案の検討、助言
2014/1/27	防災訓練【※次頁③参照】
2014/2/5	第5回プロジェクト会議実施 ・防災訓練、監修者の助言を踏まえた職員対応モデル及び避難所活用モデル案の検討
2014/2/27～ 3/9	・監修者によりモデル案の検討、助言 ・各部門での本書検討
2014/3/13	第6回プロジェクト会議実施 ・監修者助言、各部門での検討を踏まえた職員対応モデル及び避難所活用モデル案の検討
2014/3/14	本事業団 所属長会議にて本書内容承認
2014/4～	本書に基づく災害・防災対策スタート(予定)

③ 防災訓練（※）

休館日を利用し、当事業団の施設管理部門を中心に総務部、施設利用サービスセンター、委託業者による、火災・地震を想定した防災訓練を実施。

火災発生場所や地震の規模等、様々なケース（下記）を想定し、各職員に事前に防災内容の詳細を伝えることなく、実態に即した人数規模での訓練を行った。

《実施訓練例》 ※日中、夜間、職員数など様々なパターンで複数回実施。各回の終了後に全員で講評・反省

- * 地震（震度4、5強以上）・・・ホール他でイベント実施中の発生を想定。広場等へ避難誘導。施設利用（主催）者からイベント続行の希望がある場合や、全館避難（イベント中止）の場合の対応を訓練
- * 火災・・・ホール・ホワイエやレストラン等からの出火想定。状況に応じた避難誘導やケガ人搬送等を訓練

【開催日】 平成 26 年 1 月 27 日（月）

【参加職員アンケートより】

- ・複数回繰り返すことで、前回の反省点がすぐに活かせることがあってよかった。実際のシフトを使っただけの想定訓練だったので、リアリティがあった。夜間想定の人が少ないときの訓練ができてよかった
- ・各部の役割分担を実際に再確認できた。また、マニュアルの通りにはいかないことが分かりそのときの各自の判断の大切さを痛感させられた。多くの参加者から指摘をいただき、訓練の必要性を感じた
- ・避難誘導・消火活動等がメインだと思いますが、お客様と接する場合それ以外の対応（クレーム、帰宅に関する情報、返金処置など）をどの程度までするのか、を考えておかないと時間をとられてしまい、避難誘導など命に関わる事まで影響しかねないと思った
- ・ホール担当者は主催者によってはかなり行動を制限される。本部への連絡がうまくいかない可能性がある。別ルートでの連絡方法も検討すべき
- ・お客様との想定されるトラブルへの回答のマニュアルがあるといい
- ・夜間想定での訓練では人数が圧倒的に少なく、情報の集約も出来ず機能していないことも多かった。特に地震対応では、貸館利用者への案内も含めると事務所待機 1 名の状況はかなり難しいと感じた
- ・4 月の初旬に新任者・異動者を対象にある程度の説明をするべきだと思います。危機管理マニュアルだけでなく、具体的に話をしたほうが良いです

【アンケート等を踏まえた成果と今後の課題】

- ・実態に即した訓練の実施や、参加者全員で訓練後のふりかえりを行ったことで、災害時の対応について職員の危機意識を高めることができた。また、日頃の防災意識を高める機会になった
- ・災害時における本部や各部署の役割を見直す機会となった。また、混乱時のスタッフ間での情報共有方法など、具体的な課題を見つけることができた
- ・組織全体で対応能力を身につけるため、訓練で明らかになった課題の改善を繰り返していく必要がある